

| 第3回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会 | |
|--------------------------------|---|
| 日 時 | 平成23年月3月4日(金) 10時から11時30分まで |
| 開催場所 | 市庁舎8階 8C会議室 |
| 出席者 (敬称略) | 井上禮子、黒津貴聖、斉藤保、柴田眞紀、白岩正明、竹谷康生、中野しずよ、名和田是彦、平賀裕、山田美智子 |
| 欠席者 (敬称略) | 吉弘初枝 |
| 開催形態 | 公開(傍聴者なし) |
| 議 題 | 報告 第2回分科会からのヒント集作成作業経過について 議事(1)「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」の内容、表現等について (2)様式案の見せ方について ア 「ヒント集 冊子 様式案」について イ 「ヒント集 リーフレット 様式案」について (3)ヒント集の活用について (案) |
| 決定事項 | 1 「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」【資料2】について、今回の議論で出た意見をもとに事務局で修正し、「ヒント集 冊子 様式案」【資料3】に落とし込んでいくことになりました。 2 冊子とリーフレットの活用方法の棲み分けを事務局で検討し、その結果によりリーフレットに掲載する内容も検討するということになりました。 |
| 議 事 | 1 開 会 深川福祉保健課長 健康福祉局福祉保健課長あいさつ 2 報 告 第2回分科会からのヒント集作成作業経過について【資料1 参照】 ※事務局より資料説明 3 議 事 (1)「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」の内容、表現等について【資料2 参照】 ※事務局より資料説明 【質疑】 (名和田会長)【資料2】が、【資料3】のヒント集冊子様式案に落とし込まれていく内容になる。様式の見せ方については、議事の(2)で議論をしていただくので、まずは【資料2】の中身についてご意見をいただきたい。 (竹谷委員)事務局の資料説明の中で、<解決に向けた具体的ヒント>が、一見当たり前のことのように見えるが、当たり前のことを当たり前にやることが重要というような話があったが、担い手を見つけるための具体的な手法というのは、地域の中のいろいろな背景があり、資料に表現されているものよりもっとどろどろしているものである。それらについて表現を柔らかく、一般的なものにすると、こういった上品な表現になってくるのではないかと。 また、【資料2】の1ページ目の、①の「PTA活動」に関する部分については、私も発言させて |

いただいたが、現在PTA活動をやっている忙しい人たちではなく、過去にそういった活動をしてきた人たちに声かけをしてみてはどうか、という意味で申し上げたつもりだった。担い手を引き込む上で、いろいろな段階、時間軸があるはずである。そういった点に留意して記載してみてはどうだろうか。

②の「ヘッドハンティング」については、私たちの団体では、仲間づくりをする上で「派閥をつくれ」と言っている。例えば地域のテニスグループがいるとして、その大勢のメンバーを束ねる「長」がいるはずであり、そういう人に目をつけて声をかけることが効果的だと考えている。

③の「地域のキーパーソン」についても、ここでは「キーパーソンに自分たちの活動を紹介してもらおう」という主旨の表現になっているが、キーパーソン自身を自分たちの活動に引き込むこともできるはずである。私たちの団体では、「天下り大歓迎」という意識で、自治会町内会長等のポストを辞めそうな人を、こちらに引き込むよう心がけている。コンセプトは「天下りを狙え」である。

以上、どれもなかなか上手に表現するのが難しいが、大事な手法だと感じている。

(名和田会長)「天下り」というか、地域活動の「経験者」というような記載にすれば、多少表現が柔らかくなるのではないか。

(深川課長) 地域活動経験者の、過去の経験値を呼び起こすようなイメージだろうか。

(名和田会長) 自治会町内会長等を経験していると、自分のその冠がなくなってしまうと寂しいと思う人が多く、声をかけると意外と積極的に参加してくれる人も多いものである。

(深川課長) 確かに現在の資料の表現は上品過ぎるかもしれない。もっとくだけた、読み手の目をひくような表現を検討したい。

(斉藤委員) 表現を考える上で、「時間軸」に目を向けるというのは具体的でよいかと思う。さらに、事務局が複数の団体に活動のヒアリングを実施しているので、それらのエピソードを加えると、迫力が出るかと思う。掲載するネタは揃っているはずなので、現在抽象的に表現されているものを、もう少し具体的な表現に戻していくようなイメージだろうか。

(鳥居係長) ヒアリングで得たエピソードについては、【解説・コラム等】の部分にできるだけ載せていきたいと考えている。

(名和田会長) 【資料2】の【解説・コラム等】に記載されているものの中で、既に文末に(～団体ヒアリングより)という、ヒアリングで得た情報を引用している部分がある。そういう部分をもっと膨らましていってはどうだろうか。

(深川課長) 出来るだけ読み手の目を引く、臨場感のある表現を、と考えている。場合によっては分科会各委員にも、ご自身の経験や考えからのヒントを書いていただくことも検討したい。その場合には、是非ご協力をお願いしたい。

(黒津委員) 私個人としては、最も重要なのは自治会町内会と考えている。【資料2】の1ページ目の③に、「自治会町内会の会長等地域のキーパーソン」という表現があるが、「地域のキーパーソン」は確かに重要であるが、キーパーソンは何も自治会町内会長に限ったことではない。民生委員やその他の活動者でも、キーとなる人は多くいる。「自治会町内会の会長ならびに関係者等地域のキーパーソン」という表現にしていきたい。「地域に活動を紹介してもらおう」ということも、人材を発掘したり活動を広げたりする上では非常に重要である。夏祭り等でも、自治会が主導で実施しているところは非常に盛り上がり、自治会の力の大きさを感じる。

(井上委員)自分の地域で自治会町内会長をしていて、ゲートボールやグラウンドゴルフ等、いろいろな活動をしているが、女性は昔から参加している人が多いので、地域のことをよくわかっている。しかし男性は、仕事を定年退職して急に入ってくるので、地域のことをよくわかっていない人が多い。キーパーソンになるためには、教育が必要かと思う。地区社協についても同じことが言える。

(名和田会長)黒津委員がおっしゃるように、自治会町内会の力は確かに重要である。【資料2】の内容をヒント集冊子に落とし込むときに、表現については考えればよいのではないかと。また、井上委員のおっしゃる意見ももつともである。男性の活かし方については、検討が必要である。【資料2】の5ページ目、④「やりがい モチベーション」の③「頼りにする」のあたりで、上手く表現できればよいのではないだろうか。

(中野委員)活動への参加をお願いすることについては、普段から別の活動をしていて忙しい人でも、頼めば参加してくれる人は多い。逆に、時間がある人でも1週間のうち何か1つでも他の予定が入ってしまうと「今週は忙しい」と断られる人もいる。何も引退した時間がある人ばかりをターゲットにすることもないと思う。普段から別の活動をしている人や、忙しい人でも、参加してくれる人はいる。

自治会町内会長等のキーパーソンの協力については、確かに自治会町内会等の地縁型組織の力は大きいと思うが、テーマ型の活動に対して理解してもらうことが困難な場合がある。例えば、子どもの送迎や一時預かりの活動などに対して、「親がしっかりしていればそんな活動は必要ない」等の返答で一蹴するような人もいる。連携も重要なことはよくわかるが、付き合うのが大変な場合もある。

(深川課長)活動の内容によって、活動への参加を求める人や協力を仰ぐ人のターゲットが違うということではないか。

(柴田委員)過去に発行されている地域ケアプラザの「コーディネーターハンドブック」の中に、今回【資料2】に記載されている「自治会町内会の会長等」の「等」にあたる、地域の委員にどういる人がいるか、という一覧表が記載されている(P196 参照)。また、地域活動を推進するにあたり、どこにどういふ協力を上げばいいか、という表もある(P57 参照)。ヒント集の作成にあたり、是非参考にさせていただきたい。

(山田委員)子育て支援の活動でいうと、かつての支援利用者が、子どもが大きくなって逆に活動者になってくれるということが頻繁にある。おそらく活動内容によって、活動に誘う方法や活動を広げる方法は様々なのではないか。また、子育て支援の活動者については、自治会町内会と繋がりを持ちたくないからNPOでやっているという人も少なくない。中には掛け持ちで別のNPOの活動をしているような人もいて、地域ケアプラザとも繋がっている人も多い。そういった人たちも、地域のキーパーソンになり得るのではないかと。

(名和田会長)忙しい人ほどキャパシティも大きいということか。

今までの話の要点をまとめると、

「<解決に向けた具体的ヒント>について、時系列で表現できる部分があるのではないかと」ということだろうか。

例えば、【資料2】の1ページ目でいうと、

○活動への誘い込みについて、誘い込む対象者が、既に他の活動をしている時点で引き込むのか、もしくは活動や仕事を引退してから誘い込むのか、といった時間的な表現

○テーマ型の活動について、自治会町内会等の地縁型の団体との付き合い方
(活動をし始めたときには受け入れてもらえなかったが、どこかの時点で理解してもらうことができた、という時間的な流れがあるはずであり、そういった時間的な表現ができないか)
といったことだろうか。

(黒津委員) マンションが増えていて、自治会に加入したくないという人も増えている。地縁型の活動で関係をつくるのが難しいケースが増えている。そういったところについて、NPOの活動や、マンション訪問をしている民生委員等に頼らなければならないところもあると思う。

(斉藤委員) たくさんの種類の活動があり、それぞれの個別性も強いということは確かである。このようなヒント集を見る人というのは、何かしら現在の自分の活動や、地域について課題を感じている人だと思うので、そういった個別性についても、掲載するにあたり無理やり一般的にまとめるのではなく、見る人にいろいろなケースがあるということを知ってもらうというスタンスでもいいのではないか。

柴田委員のご意見ももつともである。既にいろいろな方面から、同じような目的で発行されている資料が多くある。今回の冊子にも、既存の資料を引用したり、もしくは既存の資料のどこにそれについて書かれてあるか、という記載があったほうがいいかもしれない。

(名和田会長) それぞれの個別性を一般化すると、どうしても上品な表現になってしまうのでは。

(竹谷委員)【資料2】の2ページ目の、②「声かけを工夫する」のところで、「個人で声かけをする場合」と、「団体として声かけをする場合」があると思う。転居等で新しく地域に入ってくる人については、まずは自治会等の団体として声をかけるべきだと思うし、以前から付き合いがあり、この人は参加してくれそうだと感じている人には、個人的に声をかけるべきである。行政で実施している「地域デビュー応援」のようなものは、仕事を引退した人々を対象に、団体として声かけをしていることになるだろう。

○ 不特定多数の人々 → 団体として声をかける

○ 特定の個人 → 個人として声をかける

等の棲み分けが必要ではないか。

一方、私がよく申し上げている、地域活動の役割分担において「スキルとマネジメントを分ける」手法でいうと、声かけについてはまず「スキル」を重視するべきである。「あなたのその能力を貸していただきたいのです」という、その人の自身をくすぶるような誘い方をすべきである。ただ「手伝ってくれ」というのでは、なかなか参加してもらえない。

(井上委員) 確かに、男性でも、何か特技や技術を持っている人は、活動に誘いやすい。

(名和田会長)【資料2】の2ページ目、②「声かけを工夫する」の〈解決に向けた具体的ヒント〉の①は個人として声をかけるパターンが想定され、②は団体として声をかけるパターン、③は活動団体(テーマ型団体)から地縁型団体へ声をかけるパターンである。資料の中だけでも、様々な声かけのパターンがある。

竹谷委員のおっしゃる「スキルとマネジメント」については、【解説・コラム等】に載せる必要があると思う。2ページ目について、冊子に内容を落とし込む段階でどこかに記載すべきではないだろうか。

(深川課長)特に男性の誘い込みについて、「スキルとマネジメント」についての表現を入れようかと思う。

(中野委員)井上委員の団体にヒアリングを実施した際、お祭りのときに、男性にはまずモチつきだけに参加してもらい、そこから徐々に活動に引き込んでいきたい、というような話があった。まさにそういうことではないか。

(名和田会長)その人のスキルを重視して活動に誘いこむ、というのは、事例がいろいろとあると思う。

(柴田委員)(前述の、「コーディネーターハンドブック」のP57、「ひと声あいさつ運動」の事例について概要紹介)

(黒津委員)近頃は地域で挨拶をしてもなかなか返事がない。

(竹谷委員)私の自治会では、団体で統一の目立つ帽子をつくり、それをかぶって活動をしている。どこの誰だかわからないということでは挨拶しても無視されることもある。ユニフォーム等をつくり周知をはかることは、かなり効果がある。

(井上委員)近頃は学校でも、挨拶をするように、という教育がされているようである。

(名和田会長)そろそろ、次の議題に移りたいと思う。

3 議 事

(2) 様式案の見せ方について

ア 「ヒント集 冊子 様式案」について<資料3>

イ 「ヒント集 リーフレット 様式案」について<資料4>

※ 事務局より資料説明

(名和田会長)本来こういった場で議論をすべき内容ではないかもしれないが、デザインについて業者委託もできないということで、ヒント集の冊子と、リーフレットの様式案の見せ方について、ご意見いただきたい。

(竹谷委員)「冊子」と「リーフレット」については、両方合わせて見る場合もあるということか。

(鳥居係長)「冊子」については、掲載される内容がかなり細かいので、支援者も見て参考にしていきたいと考えている。「リーフレット」については、地域に広く周知したいと考えている。

(黒津委員)冊子にもリーフレットにも、キャッチコピーとして「新たな担い手を見つける」とあるが、この主体は誰ということになるのか。

(鳥居係長)【資料1】の説明で説明したとおり、対象者は地域活動者(既に活動をしている方)を中心として整理している。

(平賀委員)実際の色はどんなふうになるのか。

(鳥居係長)あくまで白黒での印刷を考えている。

(平賀委員)人の手に渡る上で、「中身を見てみたいな」と思えるような工夫がないといけないのでは。デザインや色数、イラストや図等の面で工夫が必要ではないか。自分の活動でも、メンバーの中でそういった技術に長けた人がいて、随分と協力してもらった。

(名和田会長)予算の問題がある。

(深川課長)もしも各委員のお知り合いで、こういったデザイン等に長けていて、紹介ができるよう

な人がいたら紹介していただきたい。事務局でも、どこまでデザインに費用をかけられるかは検討させていただきたい。

(白岩委員)私の地域の活動でも、「向こう三軒両隣」のような、皆で支えあえるような関係づくりをもっと発展させていかなければならないと考えている。広く一般の人が見るというよりは、既存の活動者が見て活動の工夫ができるような内容だとすれば、冊子とリーフレットを使い分ける必要があるのだろうか。そもそもリーフレットは必要なのか、と思う。

また、先ほども話が出ていたが、地域にどんな団体があって、キーパーソンとしてどのような人がいるか、ということは是非記載していただきたい。

市のホームページにもアップロードして、誰でも見られるような形にはしていただきたい。

(名和田会長)対象はあくまでも地域活動者であり、全く関係のない人にまで配るものではない。リーフレットについては、配布する範囲を検討する必要があるし、そもそもリーフレットが必要かどうか、という意見もあった。コンセプトから考えても、あまり派手なデザインは必要ないかもしれない。

(竹谷委員)リーフレットのほうに、「先進的事例・解説・コラム等」についてのスペースが設けられているが、見たくなるような記事を、前面に持ってきたほうがいいと思う。例えば、名和田先生が最初に、新しい人を誘い込むことに成功したときのエピソード等はどうか。

(斉藤委員)冊子はしっかりと時間をかけて読んでいただくもので、リーフレットは広く周知をはかるためのもの、という扱いであれば、リーフレットについては支援機関の施設等に置いておく必要がある。そうであれば、リーフレットに記載する内容として、「冊子についてはどこで配布しているか」を記載する必要があるのでは。また、「どこにヒアリングを行ったか」ということも記載しておいたほうが、見たいと思う人が増えるのではないか。リーフレット案の見開きの①～⑤のようなテーマは残しつつ、そういったことについても記載していったほうがよいのではないかと思う。

(名和田会長)このリーフレットを見る人は冊子も見の人だ、という前提であれば、「リーフレット」は「冊子」につなぐための媒体のようなもの、という位置づけということか。地域福祉保健計画の概要版のような、冊子に書いてある内容をコンパクトにまとめたものという位置づけでない。

(鳥居係長)事務局としては、当たり前すぎてできているように見えて実はできていないような手法をまずリーフレットに掲載して、もうワンステップ進みたいという人には冊子を、というイメージで考えていた。議論がヒント集の活用のほうに及んでいるようなので、先に次の議事について説明させていただきたい。

3 議 事

(3) ヒント集の活用について(案) <資料5>

※ 事務局より資料説明

(名和田会長)ヒント集の活用については、今事務局から説明があつたとおりである。こういった活用案について、冊子はこのように活用すべき、リーフレットはこのように活用すべき、といったご意見があればいただきたい。

(深川課長)【資料5】について、冊子とリーフレットの活用方法の棲み分けがしっかりとできていな

かったと思う。そのあたりについても、この時間で議論できればと思う。

(斉藤委員)リーフレットについて、冊子のPRのためのリーフレットだという考えにするとすれば、記載する内容も現在の案とは変わるはずである。難しいとは思いますが、案で記載してあるような内容も伝えつつ、冊子のPRもリーフレットの中でできればと思う。

(深川課長)文字数がかかなり多くなることは懸念される。

(斉藤委員)デザインというよりも、書いてある内容をうまく編集することに費用をかけたほうがよいように思う。

(山田委員)あくまで導入のためのリーフレット、という考え方なら、現在案にあるような、ヒントの内容の話は、それほど必要ないと思う。

また、リーフレットのサイズについてだが、現在はA3サイズの3つ折ということだが、私の拠点に常時置いてある冊子がいくつかあるが、圧倒的にA5サイズのものの手にとられる回数が多い。置く場所によって、縦長かそうでないか等の話もあると思うが。

(斉藤委員)気軽に手に取りやすいというのがあるのだろう。

(井上委員)大きいものはあまりよくない。

(黒津委員)折りたたんでしまってもよいのでは。

(平賀委員)活用の基本は冊子にするべきとは思いますが、リーフレットについても、鞆に入りやすいサイズにしたからといって、そもそもの目的に沿うか、という疑問はある。エッセンスとして冊子に繋がっていくリーフレットにしたほうがよい。まずリーフレットに目がいって、冊子のほうにはもっと多くの情報が載っていて、あくまで冊子への導入という形にしたほうがよいと思う。

(名和田会長)【資料5】の2「活用に向けた取組」について、地区センターやコミュニティハウスにおいての活用も視野に入れているということで、それは大変嬉しいことである。地域のコミュニティづくりの場として日々活用されているのに、陽の目を浴びていない施設である。地区センターやコミュニティハウスの職員にも、是非意識啓発をしていただきたい。

(深川課長)市民活動支援センター等を所管している市民局ともヒント集の活用については現在話をしている最中であり、連携をしていきたいと考えている。

(名和田委員)区民利用施設については、どうしてもこういった意識が薄いように感じる。

(斉藤委員)山田委員のいらっしゃる子育て支援拠点にもこういったエキスが入ると、良い効果が生まれるかもしれない。

(山田委員)同感である。是非子育て支援拠点も活用の対象としていただきたい。

(名和田会長)今までの議論を次第に沿って簡単にまとめると、

- ヒント集 冊子については、概ね現在の案のスタイルで様式に落とし込みをしていく(<解決に向けた具体的なヒント>について、時系列を重視した表現を検討する)
- ヒント集 リーフレットについては、どのような活用方法をとるかということも含め、記載内容を検討する必要がある
- ヒント集の活用については、もっと地域の活動拠点における意識啓発に重点を置いてほしい

といったところだろうか。

他に何か意見はあるか。

(黒津委員)【資料5】の3「活用に向けたアイデア」について、ヒント集活用に向けた取組(営業活

動)には、時間があれば参画したいと思う。その際には打合せさせていただきたい。

(白岩委員)リーフレットの活用については、今まで地域づくりという意識では参加してこなかった地区センターやコミュニティハウスでの活用を、是非していければと思う。指定管理者制度になってからは、そういった意識が薄れているように感じる。

(名和田会長)白岩委員の若葉台での活動では、定期的な会議等に地区センターの会長もメンバーとして入っている。そういった視点を持って活動に取り組んでいच्छることがよくわかる。

(竹谷委員)多くの地域があり、それぞれの地域で状況や課題が違う。こういった冊子に載せられている取組を見ても、自分の地域の現状と比べてしまっめてしまう人も多いと思う。「自分の地域は伝統のある地域で、古くからの住民が多く、なかなか新しいことができない」とか、「団地ばかりでこんな取組はできない」とか、そんなふうにして諦めてしまうのである。こういった問題がクリアされるような内容が、冊子に盛りこめられないものかと思う。

(齊藤委員)冊子の活用については来年度からということだが、申し上げているように既に似たようなテーマでいろいろな冊子があり、全体的に考えればかなりの費用もかかっている。完成したから終わり、とか、3年経ったからそろそろ新しいものを、とかではなく、改善すべきところは改善しつつ、10年20年使い続けていけるようなものを作成していただきたい。

(黒津委員)今までいろいろと意見を出してきたが、活用が来年度ということになると、私たち分科会委員には、どれほどの反響があったのかを知る術がない。そういった情報は事務局から提供いただきたい。

(鳥居係長)来年度の策定・推進委員会でも報告はしていく予定であり、今年度の分科会のみ参加して下さっている委員に対しても、情報提供はさせていただきたいと考えている。

(中野委員)リーフレットについてだが、例えば民間の保険会社のテレビCMなどを見ると、「こういう保険がある」ということぐらいしかテレビでは放映せず、詳しくはインターネットや店頭で、という方式が多いと思う。リーフレットはとにかく数を多く作って、目に留まるところに置いたほうがよいのでは。置く棚によってサイズをどうするか、ということはあると思うが、そもそもこういった経緯があり、こういったアイデアを載せている、といったような、冊子の導入になるような表現がよいのでは、と思う。

(名和田会長)そろそろ時間なので、終了とさせていただきます。今後も事務局から個別に協力依頼等があるかもしれないが、ご対応についてはお願いしたい。進行を事務局にお返しする。

(深川課長)多くのご意見をいただいた。今後の進め方については、本日の意見を踏まえ、3月29日開催の策定・推進委員会にて修正、追記等したものを提示したいと考えている。分科会のみ委員については本日の分科会が最後になるので、策定・推進委員会で提出する資料の内容については、事前に相談したいと考えている。策定・推進委員会で提示し、その後ヒント集の内容について確定させたいと考えている。

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>資 料</p> <p>・</p> <p>特記事項</p> | <p>(分科会資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (資料1) 第2回分科会からのヒント集作成作業経過について ・ (資料2) ヒント集 冊子 掲載内容一覧 ・ (資料3) ヒント集 冊子 様式案 ・ (資料4) ヒント集 リーフレット 様式案 ・ (資料5) ヒント集の活用について (案) <p>別添資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回 第2期横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 分科会 議論のポイント ・ 「ヒント集 冊子 掲載内容一覧」と「ヒント集 冊子 様式案」「ヒント集 リーフレット 様式案」の関係 |
|---------------------------------|--|